カンボジア中央部セン川下流部の地形特性について

Geomorphological features in the Stung Sen river downstream, central Cambodia

南雲 直子 [1]; 久保 純子 [2]; 須貝 俊彦 [3]
Naoko Nagumo[1]; Sumiko Kubo[2]; Toshihiko Sugai[3]

[1] 東大新領域環境; [2] 早稲田大・教育; [3] 東大新領域自然環境
[1] Environmental Studies, KFS, UT; [2] School of Education, Waseda Univ; [3] Natural Environmental Studies, KFS, UT

カンボジア中央部を流下するセン川 (Stung Sen) はトンレサップ (Tonle Sap) 水系最大級の支川であり，その流域面積はおよそ 16245 平方キロメートル，幹線流長およそ 500 キロメートルの河川である．タイとの国境付近に位置するダンレック (Dangrek) 山脈にその源流を持ち，大きく弧を描くように南東から南西方向に向った後，コンポントム (Kompong Thom) 市付近で流路を西に変更してトンレサップ湖に流入する．上流部から中流部までは氾濫原を持たずに穿入蛇行しながら流下し，トンレサップ湖との合流点から 220 キロメートル付近より下流では，幅 7 キロメートル程の広い氾濫原を形成する．コンポントム市付近では雨季と乾季に 3 メートル前後の水位差があり，季節による河川システムの変化は顕著である．流域にはプレアンコール (Pre-Angkor) 期からアンコール (Angkor) 期にかけての多くの古代クメール (Khmer) 遺跡が点在することで知られ，特に河口から 15 キロメートル付近の右岸側にはプレアンコール期の真臘 (Chenla) 国王都イーシャナプラ (Isanapura) に比定される遺跡が立地したり，上流部ではアンコール期初期の都市遺跡コーケー (Kor Ker) や，プレアヴィヒア (Preah Vihear) 寺院が立地したりするなど，歴史的にもセン川流域は重視されてきた．しかしながら，これまで本格的な地形調査はほとんど行われていない．本研究では主にセン川下流部周辺に着目して，写真判読によって作成した地形分類図と現地調査から，セン川下流部の地形特性について考察を行う．